

## 過酷なエンペラーペンギンの繁殖

身を削った子育て

長距離移動

気温マイナス60℃

100日間の絶食

## 南極の冬到来！

南館ペンギン水槽がまもなく冬を迎え、エンペラーペンギンの繁殖シーズンが到来。そこでエンペラーペンギンの繁殖事情に注目しながら、その1年間の生活史を簡単に紹介する。

巣立った若鳥は親に頼らず自力でエサを捕りながら成長していく。

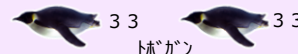
ヒナが生まれるころ、エサをたくわえたメスが繁殖地に戻り、オスと交代しながら子育てをする。メスが戻るより先にヒナがふ化した場合は絶食中にもかかわらず、オスは「ペンギンミルク」と呼ばれる食道からの分泌物(消化器官の組織が剥離したもの)をヒナに与える。体重は絶食前後で3分の2まで減少する。

ヒナが大きくなると与えるエサの量も増えるため両親ともエサを求めて海に行く必要がある。この時期には「クレイシ」と呼ばれるヒナだけの集団が作られる。

名古屋港水族館の最新情報は、公式HP (<https://nagoyaaqua.jp>) をチェック！

5～6月初めに産卵。メスは産んだ卵をオスにあずけ、エサを求めて海へ戻る。オスは何も食べずにメスの帰りを待ちながら卵をひたすら温める。オスの絶食期間は移動も含めるとなんと約100日間くらい。また、抱卵時期にあたる南極の冬の環境は非常に厳しく、気温マイナス60℃、台風並みのブリザードが吹き荒れることも。寒さをしのぐためにオス同士で身を寄せ合う「ハドル」と呼ばれる行動が見られる。卵は約60日でふ化する。

海から陸上に戻り、内陸の繁殖地へ向かう。その距離は長いところで100キロにもおよぶ。歩くほかにトボガンと呼ばれる腹ばいでソリのように滑りながら移動することもある。



繁殖地に着くとペアづくりが始まる。ペアづくりの際にはお互い向き合って首を伸ばして静止する「フェイス・トゥー・フェイス」やおじぎのように頭を下げて、向き合ったあとに鳴き交わす「相互ディスプレイ」といった行動が見られる。



フェイス・トゥー・フェイス



相互ディスプレイ

ペアができると交尾が行われる。

## 担当飼育係の声

当館で飼育しているエンペラーペンギンでも繁殖シーズンには「フェイス・トゥー・フェイス」や「相互ディスプレイ」といった行動を見ることができます。ぜひ観察してみてください。

